

March 11, 2020

**【前日の為替概況】ドル円、4日ぶり急反発 米減税などへの期待でリスクオフの巻き戻し**

10日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4営業日ぶりに急反発。終値は105.64円と前営業日NY終値(102.36円)と比べて3円28銭程度のドル高水準だった。トランプ米大統領による給与税減税など「大規模な」景気対策への期待が高まる中、時間外のダウ先物が1100ドル超上昇するとそれまで過度に傾いていたリスクオフの巻き戻しが進行。「日銀は金融緩和で設けている指数連動型上場投資信託受益権(ETF)の購入枠拡大を検討」との報道も円売り・ドル買いを促し、20時前に一時105.21円まで値を上げた。

その後「米政権は劇的な経済対策案を用意できていない」との観測報道が伝わると、一時は940ドル超上昇した現物のダウ平均がマイナス圏に沈んだため、ドル円にも売りが出て一時103.22円付近まで下押しした。ナイト・セッションの日経平均先物が日証終値比790円安の1万9020円まで売られたことも相場の重しとなった。

ただ、トランプ米大統領は与党・共和党議員との協議で「大統領選挙まで給与税を免除することが望ましい」と打診したと明らかになると米景気対策への期待が再び高まった。ダウ平均が引けにかけて1100ドル超上昇し、日経平均先物も急速に持ち直したため、ドル円にも買い戻しが入り一時105.92円と日通し高値を更新した。

ユーロドルは4日ぶりに反落。終値は1.1281ドルと前営業日NY終値(1.1450ドル)と比べて0.0169ドル程度のユーロ安水準だった。足もとで相場上昇が続いたあとだけに利益確定目的の売りが先行。米長期金利の上昇に伴うユーロ売り・ドル買いが優勢となり一時1.1275ドルと日通し安値を付けた。ロンドン16時(日本時間1時)のフィキシングに絡んだユーロ売り・ドル買いも観測された。

なお、12日の欧州中央銀行(ECB)理事会では利下げが見込まれているが、市場の一部では「利下げに加えて社債買い入れを通じた資産買い入れプログラムの拡大を決定するのでは」との見方が出ている。イタリアのコンテ首相はこの日、新型コロナウイルス対策でECBに可能な手段の総動員を要請。同国では死者が前日の463人から631人に急増している。

ユーロ円は4日ぶりに反発。終値は119.19円と前営業日NY終値(117.13円)と比べて2円06銭程度のユーロ高水準。20時前に一時119.35円上げたものの、その後失速し117.48円付近まで下押しした。ただ、そのあとは米国株やドル円の上昇につれた買いが入り、一時119.49円と日通し高値を更新した。

**【本日の東京為替見通し】乱高下繰り返す、米給与税減税はある程度織り込み済み**

本日の東京市場のドル円も乱高下が予想される。ここ連日でアジア時間だけで約3円の乱高下を繰り返している。昨日の欧米時間も異常な値動きをみせていることで、本日も方向感のない動きが予想される。昨日トランプ米大統領やムニューシン米財務長官が経済対策を打ち出すことを約束したことで、この内容により株式市場がどの程度反応するかが本日の為替市場の動向を決めることになりそうだ。ただし、よほど大きなポジティブサプライズがない限り、ドル円がそのまま上昇トレンドを続けるのは難しいかもしれない。すでに昨日ドル円は先週金曜日の東京17時頃の水準(105.80円近辺)を回復している。これ以上、上値を切り上げるのは週末に起こったリスク要因(新型コロナウイルスの感染拡大によるニューヨーク州の非常事態宣言やイタリアの複数自治体の隔離政策、サウジアラビアの増産など)を帳消しにすることになり、いささかオーバーシュートともいえそうだ。

本日のドル円のドル買い要因としては、米国の経済対策への期待による株価の上昇が主要因になるだろう。ポジティブサプライズが出た場合はドル買いになりそうだ。

一方ドル円の売り要因は、上記の減税対策が期待外れとなった場合だ。現時点では給与税減税などはある程度織り込んでいることで、それ以上のサプライズがない場合には上値は限られるだろう。また、株価対策を行ったとしても、サウジアラビアが来月から2割増産すると発表している。原油市場のトレンドが変わらない限り、リスクオフ要因が残ることはドル円の売り要因になる。

なお、昨日安倍首相が新たに10日間ほどのイベントなどの自粛要請を発表したが、多くの市場参加者は「Too Small, Too Late(小さすぎて、遅すぎる)」という評価が多い。また、中小企業への無利子融資などに対しても、その前に倒産する可能性なども指摘されていることで、評価は著しく低く、日本のウイルス対策で市場が動くのは難しそうだ。

ドル円以外の通貨も引き続き乱高下が予想される。早朝からデベル RBA（豪準備銀行）副総裁は「財政と金融政策が困難な時期を支援するのに役立つ」「最近の豪ドル安は経済を刺激するのには役立つ」と発言しているが、豪ドルは利下げ期待や豪ドル安を歓迎する向きもあるため上値は限られそうだ。

本日の経済指標は、米国の2月消費者物価指数（CPI）の発表が予定されているが、経済指標で動くのは難しいだろう。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 08:30 ◇ 3月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 16:00 ◇ 1月トルコ経常収支（予想：25億ドルの赤字）
- 18:30 ☆ 1月英国内総生産（GDP、予想：前月比0.2%）
- 18:30 ◎ 1月英鉱工業生産指数（予想：前月比0.3%／前年比▲2.6%）  
◎ 製造業生産高（予想：前月比0.2%）
- 18:30 ◇ 1月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：70.00億ポンドの赤字／3.56億ポンドの赤字）
- 19:00 ◇ 1-3月期南アフリカ経済研究所（BER）企業信頼感指数（予想：24）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 21:00 ◎ 2月ブラジルIBGE消費者物価指数（IPCA、予想：前月比0.15%）
- 21:30 ☆ 2月米CPI（予想：前月比横ばい／前年比2.2%）  
☆ エネルギーと食品を除くコア指数（予想：前月比0.2%／前年比2.3%）
- 21:30 ◇ 10-12月期カナダ設備稼働率（予想：80.7%）
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 12日 02:00 ◎ 米財務省、10年債入札
- 12日 03:00 ◎ 2月米月次財政収支（予想：2363億ドルの赤字）

12日

<国内>

- 08:50 ◇ 2月企業物価指数
- 08:50 ◇ 1-3月期法人企業景気予測調査
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

- 09:01 ◇ 2月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

10日 07:40 トランプ米大統領  
「給与税の引き下げを議会と協議する」  
「航空業界とクルーズ船業界と影響について話し合っている」

10日 23:07  
「FRBは哀れなほど動きが鈍い」  
「FRBは競合国と同じ水準まで利下げすべき」  
「他国は緩和策による為替アドバンテージがある」

11日 03:04  
「新型コロナウイルスの対策会議、経済対策を中心に協議」  
※経済対策について具体的な内容はなし  
「新型ウイルスの検査を自分が受ける必要はない」

10日 08:08 ムニューシン米財務長官  
「米国は新型コロナウイルスの経済的な影響に対してあらゆる手段で戦う」  
「ホワイトハウスは今週に銀行の役員との会談をもつ」

10日 10:07 オア NZ 準備銀行(RBNZ)総裁  
「非伝統的な金融政策をまだとる必要はないが、準備をしておくのが最善だ」  
「NZドルを減らすために、外国通貨や資産の購入に踏み込むことを考慮」  
「政府の対策と組み合わせると、すべてのツールがより効果的になる」

10日 10:41 黒田日銀総裁  
「新型コロナウイルスの感染拡大で、国際金融市場は不安定な動きが続いている」  
「必要に応じて躊躇なく適切な対応をとる」

10日 12:20 安倍首相  
「日銀と連携し、必要ならば適切に対応する」

10日 17:47  
「新型肺炎対策第2弾、金融支援の総額は1.6兆円」  
「財政措置4300億円、予備費2700億円活用」

10日 17:09 スウェーデン中銀(リクスバンク)  
「現時点で利下げは最も重要なことではない」  
「ここ1年でバランスシートを縮小すべきではない」

10日 21:42 プーチン露大統領  
「議会が承認するならば、大統領任期を延長する可能性はある」

10日 21:46 アルトマイヤー独経済相  
「景気刺激策については議論したが、まだ必要ではない」

10日 22:25 ジェフリー米シリア特使  
「もしロシアとアサド政権がイドリブ停戦合意を破った場合、欧米同盟国はすぐに報復する」  
「トルコとの安全保障関係を前進させるためには、露製ミサイルS400について解決する必要がある」

10日 22:50 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領  
「メキシコペソは強くなるだろう」

10日 23:03 エレラ・メキシコ財務相  
「原油売却価格は完全にヘッジされている」  
「原油相場の暴落、予算に対して直接的な影響はない」

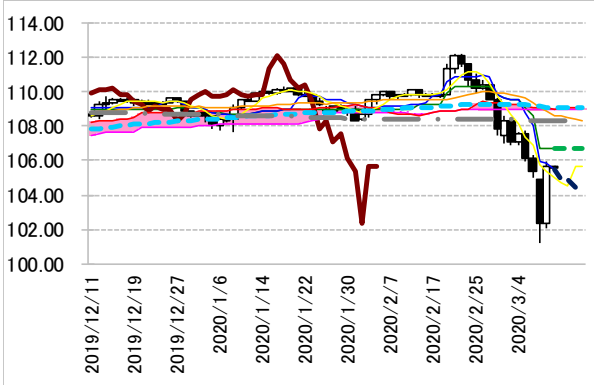
11日 00:24 一部の米民主党下院議員  
「新型コロナウイルス対策法案はまだ改善の余地があり、今週中には採決されないだろう」

11日 02:24 コンテ伊首相  
「新型コロナウイルス対策で欧州中央銀行(ECB)に可能な手段の総動員を要請」

11日 03:22 マコーネル米上院院内総務(共和党)  
「ムニューシン米財務長官とペロシ米下院議長(米民主党)が本日会談」  
「米財務長官と下院議長は経済対策で合意するだろう」  
「経済対策、超党派での合意が直ぐになされることを希望」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

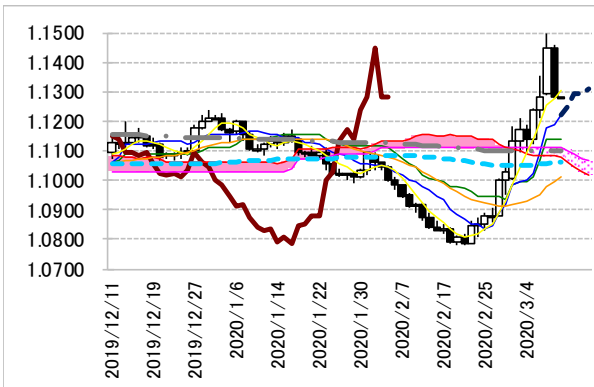


### <ドル円＝転換線付近の攻防>

太陽線引け。先週末安値 104.99 円や、同終値 105.39 円からの下落幅を埋め、105 円台の推移となった。

105.44 円で低下傾向の一目均衡表・転換線を試す局面。同線付近からいったん押し返される展開が想定される。105 円付近で低下中の 5 日移動平均線に追随することなく持ち直し、転換線近辺の売り圧力をこなすことができれば、反転・上昇の流れ継続が見込める。

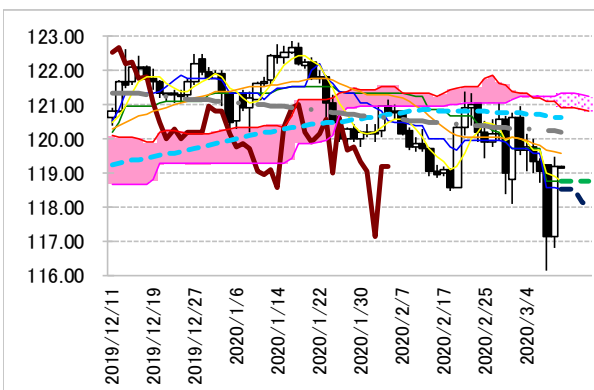
レジスタンス 2	106.71(日足一目均衡表・基準線)
レジスタンス 1	105.92(3/10 高値)
前日終値	105.64
サポート 1	104.11(3/9-10 上昇幅の 38.2%押し)



### <ユーロドル＝12月高値など次の下値の節目維持できるか>

大陰線引け。5 日移動平均線や一目均衡表・転換線といったサポートからかい離して上振れた反動安で調整幅が大きめとなり、1.13 ドル付近へ上昇した 5 日移動平均線を下回る反落となった。6 日高値 1.1355 ドルを割り込んで下押ししたが、短期的な視点で見た上昇波形の崩れも示している。昨年 12 月高値や一目・転換線 1.1223 ドルといった次の下値のポイントを維持し、やや広めな視野での上昇基調を維持できるか見定めたい。

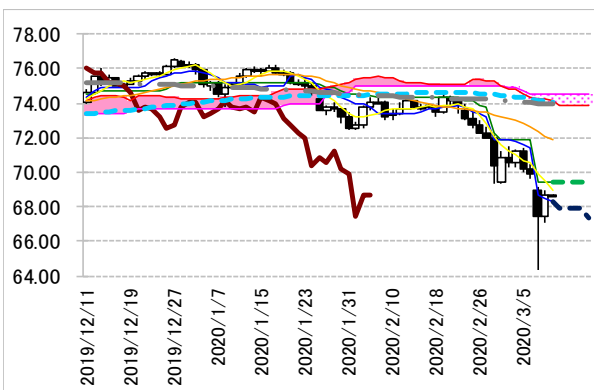
レジスタンス 1	1.1403(ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	1.1281
サポート 1	1.1239(2019/12/31 高値)



### <ユーロ円＝基準線付近の動向注視>

太陽線引け。119.49 円までの大幅反発となり、足元の下振れ幅を回復した。週明けの急落前に一目均衡表・転換線が位置していた 119.49 円でいったん伸び悩んでおり、118 円台でまだ低下中の同線は、反落が進んだ場合の下支えになりそうではない。そのやや上の 118.77 円で横ばい推移が見込まれる一目・基準線付近が、下押し局面のサポートになるか注視したい。

レジスタンス 1	119.49(3/10 高値)
前日終値	119.19
サポート 1	118.21(3/9-10 上昇幅の 38.2%押し)



### <豪ドル円＝日柄を味方に転換線をこなしたい>

陽線引け。一目均衡表・転換線 68.29 円前後で反発の流れが滞っている。低下中の同線付近での停滞は想定内だが、ポイントは現水準付近を維持し、日柄の経過を味方に切り下がる転換線をこなせるかどうか。ただ、同線をこなしても、69 円半ばで横ばいの一目・基準線が次の抵抗になる。

レジスタンス 1	68.99(3/10 高値)
前日終値	68.72
サポート 1	67.53(ピボット・サポート 1)

